

# 市民環境大学OB会 ニュースレター



第16号 2017年9月21日 発行

浅川アユまつり 釣りに興じる子供たち

OB会のメンバーはOB会活動以外にそれぞれが個別にいろいろな活動をされています。中でもとりわけ植物に造詣が深い立川絹代さんは活動家として各種イベントにも参加され、また日野の自然を守る会発行の“日野の自然”等への寄稿も多くされています。今回は湧水量調査も行ってきた谷仲山の植物について、特に貴重なハチオウジアザミについて写真とともに寄稿して頂きました。以下にご紹介します。

投稿

「谷仲山緑地」

立川 絹代

10年間湧水の調査が行われてきた谷仲山の水路や湿性には、市民に見守られ生き続け、日野の希少種に数えられる、ケンボナシ、ホソバシュロソウ、ハチオウジアザミが見られます。

昨年5月より谷仲山緑地雑木林ボランティアが誕生し、笹刈りや、下草刈り、枯れた樹木の伐採をし、緑地を整備し、春にはカタクリやニリンソウの花が見られました。

8月にはキツネノカミソリの花で緑地がオレンジ色に変わりました。

湧水地の斜面には、カノツメソウの白色の花、ホソバシュロソウのチョコレート色の花も蒸し暑い緑地に心が和みました。

クサギやミスギ、ヤマトアオダモ、マルバアオダモ、マユミ、ヤブツバキも混生し、珍しい樹木としてケンボナシも見られます。

水路にはセキショウ、カササゲが涼しげに靡き、ハチオウジアザミの大きな株や斜面のノダケはまだ蕾を付けたところです。

ハチオウジアザミは、長池公園館長の内野秀重氏が2003年八王子市内で発見され、国立科学博物館の門田裕一氏が2012年に新種として発表されたアザミです。

2013年日野の自然を守る会会員 成島忠之氏は谷仲山のアザミの同定を内野秀重氏に依頼し、ハチオウジアザミと判明しました。(参考文献：次世代へ残したい日野市重要自然地域の植物相 日野の自然を守る会 植物研究グループ)

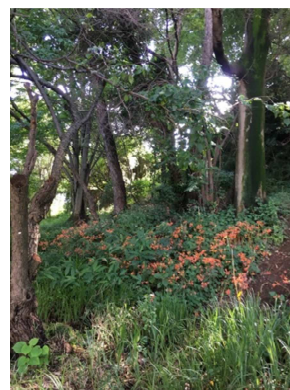
日野市にも自生していたということは大変うれしいことです。是非足を運んで見てください。



斜面に咲くカノツメソウ（セリ科）



新種ハチオウジアザミ（キク科）



花がきれいな谷仲山緑地

## OB会メンバー 活動イベントニュース

- 第二回 浅川アユまつり 開催 8月13日(日) ふれあい橋周辺に8500人の人出でたいへん盛況!
- 新測定地での湧水量測定が軌道に乗る。 黒川湧水公園(清水谷公園付近、剣道場前の2か所)
- OB会 暑気払いを兼ねた食事会開催される。8月17日(木)
- 新活動としてOB会有志による降水量の測定が提案される。

OB会 輪読報告 題名 森林飽和 著者 太田猛彦

6月 第一章 一 津波被害の実態

7月 第一章 二 津波を「減災」したマツ林

8月 第一章 三 なぜ海岸にはマツがあるのか

投稿

カナディアン・ロッキーの森

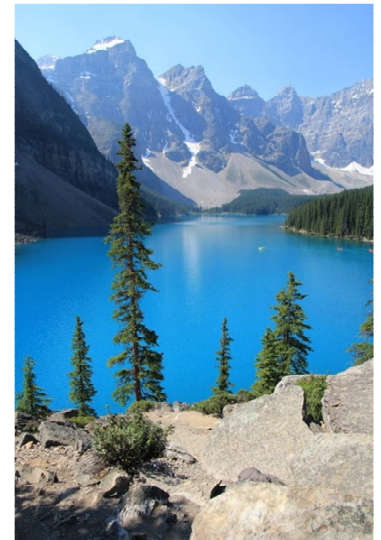
尾添 俊二

2017年7月末から8月にかけて、念願であったカナディアン・ロッキーに行ってきた。カナダの国土は日本の2.7倍もあり、ロシアに次いで世界第2位の広さを誇る。訪れた世界遺産のカナディアン・ロッキーは北アメリカ大陸西側に連なるロッキー山脈のカナダ側に位置し、アルバータ州とブリティッシュ・コロンビア州にまたがる7つの国立公園、州立公園からなり、総面積は23401平方キロメートルである。カナダ側のロッキー山脈は高さ3000m級の岩山が続き、約2000mの森林限界より上の部分は過去に海の底であったところが隆起したことを示す地層が非常にきれいに観察される。また山頂付近には多くの氷河がみられ、氷が解けた水で湖が形成され、写真で分かるように岩山、森林、湖の組み合わせはまさしく絵葉書の絵のようであった。

森林部分は針葉樹で形成されているが、案内人の解説によればほとんどが松による単一種であり、日本の赤松に類する松の下では松茸もとれるそうである。針葉樹の樹林帯は杉の仲間というような先入観念がここでまず覆された。また、訪れたロッキー山脈東側は太平洋からの空っ風が吹きおろし、非常に乾燥しているため山火事がたいへん多い。訪れた時も夕方になると山が煙で見えなくなるほどであった。この山火事の原因は人間によるキャンプなどでの火の不始末もあるが、殆どが雷や木々のこすれ、水滴の太陽光のレンズ現象での自然発火である。カナダ森林局は山火事を大きな自然のサイクルの一つとして考えており、国立公園内では火が人家に近づいてきた場合を除き、基本的には消火活動をしなすとの事である。ツアーの途中、所々で山火事の痕跡がみられたが、黒く焼け焦げた松の幹だけが残り、太陽の光が入った木の根元にはピンク色のファイヤーウードという花がぎっしり咲いていた。(写真参照) 焼け残った幹は数十年で自然に倒れ、下草が再生され、また新しい針葉樹の森となっていく。下草が再生されると草食動物が集まり、更にそれを食べる肉食動物が集まってくる。まさしく山火事は自然の萌芽更新で、そのたびに森が活性化され、森の生態系が維持されているようだ。とにかく、太古の昔から延々と繰り返されてきたであろう広大な森の中での自然現象に対し、人間は消火活動といった自然を管理するような不遜な考え方は持つべきでなく、大きな自然の営みに任せていくべきといった観点が強く感じられた。

また動物保護の点で印象的だったのが動物専用の橋である。人間は自分達のために便利な高速道路を延々と作った。森を分断する部分では動物が入らないよう安全のため両側に高さ2.4mの柵を設けてある。しかしそのために動物たちは森を自由に行き来できなくなってしまったのである。これに対しては、高速道路の所々に大規模な地下道や木々を植え自然な形とした歩道橋ならぬ動物橋(写真参照)を架け、対策としている。

今回の旅では広大なカナダの自然を満喫でき、ウサギ、リス、ブラックベア(熊)、鳥、ピカ(アメリカナキウサギ)、ビッグホーンシープなど多くの野生動物にも会えた。ただ、自然に対し人間がどのように付き合っていくべきかを考えさせられる旅にもなった。



バンフ国立公園のモレイン湖



高くそびえる針葉樹のてっぺんを見ると松ぼっくりが!



車窓から見た山火事の跡。木の根元にはピンク色の花がかすかに見える。



高速道路に架けられた動物用の橋 アニマルオーバース



岩陰から出てきたピカ(アメリカナキウサギ)に会えた!



高速道路脇で遭遇した野生動物ビッグホーンシープの群れ